

学習指導要領		都立国分寺高校 学カスタンダード
(1) 様 々 な 地 図 と 地 理 的 技 能	ア 様々な地図と地理的技能	主な地図の作成方法を知ることを通じて地図の特色を把握し、その特徴を踏まえた上で適切に利用する地図を選択できるようにする。 様々な主題図を読み取ることを通じて、地理的事象を把握できるようにする。 作業学習は時間数が少ないため授業では取り扱わない。
	イ 地図の活用と地域調査	奉仕遠足で訪問する江ノ島の地形図を主に活用し、地形図の読み取り技能を身につけさせるとともに、ハザードマップを配布し、それを読み取らせることを通じて万が一の事態に自分で適切に避難行動が取れる技能を身につけさせる。 地域調査は一人の教員の引率では生徒の安全を確保できないため、また時間数が不足するので実施しない。

	学習指導要領	都立国分寺高校 学力スタンダード
(2) 現代世界の系統地理的考察	世界の自然環境、資源、産業、人口、都市・村落、生活文化、民族・宗教に関する諸事象の空間的な規則性、傾向性やそれらの要因などを系統地理的に考察させるとともに、現代世界の諸課題について地球の視野から理解させる。 ア 自然環境 世界の地形、気候、植生などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や人間生活などのかかわりなどについて考察させるとともに、現代世界の環境問題を大観させる。 イ 資源、産業 世界の資源・エネルギーや農業、工業、流通、消費などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の資源・エネルギー、食料問題を大観させる。 ウ 人口、都市・村落 世界の人口、都市・村落に関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の人口、居住・都市問題を大観させる。 エ 生活文化、民族・宗教 世界の生活文化、民族・宗教に関する諸事象を取り上げ、それらの分布や民族と国家の関係などについて考察させるとともに、現代世界の民族、領土問題を大観させる。	自然環境と社会環境など様々な要因で決定する立地や分布、すなわち空間的な規則性を理解するとともに、要因などを理解するとともに、それに伴う課題について理解し、その解決について主体的に考察できるようになる。 1 自然環境 内的営力と外的営力の相互作用による大地形の形成要因を理解するとともに、その地域的な差異が地域に及ぼす影響を理解する。また小地形の形成要因を理解するとともに、人間生活への影響を防災面も含めて理解する。また地球全体の熱交換というメカニズムから地域ごとの気候を理解するとともに、気候の差異と人間生活との関係を考察する。 2 資源、産業 気候の差異と地域の食文化等の影響から農業をとらえるとともに、近年重視されるようになってきたロジスティックスとの関連も考察する。また、資源分布と工業という古典的な工業立地をおさえるとともに、人件費、国家政策といった要素を考慮した工業、そしてロジスティックスについて理解する。また資源、食糧に恵まれない我が国の食糧・エネルギー問題、とりわけ東日本大震災後の我が国のエネルギー問題についての各自の意見が持てるような知識の充実を図る。 3 人口、都市・村落 人口の分布の規則性を気候と地形、とりわけ稲との関係でその規則性について考察する。また都市・村落の街路・立地などを理解するとともに、都市・村落の問題を理解し、その解決方法について各自が考察できるようにする。 エ 生活文化、民族・宗教 世界の気候・風土の違いをそれまで学習した地形・気候などと関連して理解させるとともに、世界の民族・国家についての理解を深めさせるとともに、我が国を含む世界の民族・領土問題を多角的・多面的な視点から理解させる。

学習指導要領	都立国分寺高校 学カスタンダード
(3) 現代世界の地誌的考察 現代世界の諸地域を多面的・多角的に考察し、各地域の多様な特色や課題を理解させるとともに、現代世界を地誌的に考察する方法を身に付けさせる。 ア 現代世界の地域区分 現代世界を幾つかの地域に区分する方法や地域の疑念、地域区分の意義を理解させるとともに、その有用性に気付かせる。 イ 現代世界の諸地域 ウ 現代世界と日本	地域区分は難しい概念である。この単元のみを単独で取り扱っていると次数が不足するため、他の単元の中で適宜地域区分によって見えてくるものが違う実例を取り上げる。例えばアメリカ合衆国を州で区分するのではなく、人種・民族を指標に区分すると違ったアメリカが見えてくるといった事例である。 アジア → アフリカ → ヨーロッパ → ロシア → 南北アメリカ → オセアニア の順番で地域を軸にした地誌を扱うが、世界的な出来事があった場合などには適宜取り扱う国やその順番を変更する。また、比較地誌的な要素も取り扱う計画であるため、上記の順番が変更される場合もある。 世界を学ぶことを通じて獲得した、日本という国の特色を軸に、新期造山帯に属する資源小国の我が国がこれから生き残っていくための方策を各自で提言できるようにする。